

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成 27 年 8 月 13 日 (2015.8.13)

【公表番号】特表 2014-527114 (P2014-527114A)

【公表日】平成 26 年 10 月 9 日 (2014.10.9)

【年通号数】公開・登録公報 2014-056

【出願番号】特願 2014-528389 (P2014-528389)

【国際特許分類】

C 0 8 L 27/12 (2006.01)

C 0 8 K 3/04 (2006.01)

C 0 8 K 5/14 (2006.01)

C 0 8 K 5/103 (2006.01)

【F I】

C 0 8 L 27/12

C 0 8 K 3/04

C 0 8 K 5/14

C 0 8 K 5/103

【手続補正書】

【提出日】平成 27 年 6 月 23 日 (2015.6.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

A) 過氧化物硬化性フルオロエラストマーと、

B) $25 \sim 130 \text{ m}^2 / \text{g}$ の窒素吸着比表面積および $50 \sim 140 \text{ ml} / 100 \text{ g}$ のフタル酸ジブチル吸収量を有する、フルオロエラストマー 100 重量部当たり $8 \sim 25$ 重量部のカーボンブラックと、

C) 少なくとも 1 つの炭素 - 炭素二重結合および少なくとも 1 個のエステル基を有する、フルオロエラストマー 100 重量部当たり $0.1 \sim 8$ 重量部の可塑剤と、

D) フルオロエラストマー 100 重量部当たり $0.25 \sim 2$ 重量部の有機過氧化物と、

E) フルオロエラストマー 100 重量部当たり $0.3 \sim 1.3$ 重量部の多官能性助剤と、を含む硬化性フルオロエラストマー組成物。

【請求項 2】

請求項 1 に記載の組成物から製造された硬化高温エアホース。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0039

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0039】

上記のフルオロエラストマー化合物は、高温で動的耐疲労性を必要とする他の用途、例えば、ダイヤフラムにおいても有用である。

以下に、本発明の好ましい態様を示す。

[1] A) 過氧化物硬化性フルオロエラストマーと、

B) $25 \sim 130 \text{ m}^2 / \text{g}$ の窒素吸着比表面積および $50 \sim 140 \text{ ml} / 100 \text{ g}$ のフ

タル酸ジブチル吸収量を有する、フルオロエラストマー 100 重量部当たり 8 ~ 25 重量部のカーボンブラックと、

C) 少なくとも 1 つの炭素 - 炭素二重結合および少なくとも 1 個のエステル基を有する、フルオロエラストマー 100 重量部当たり 0.1 ~ 8 重量部の可塑剤と、

D) フルオロエラストマー 100 重量部当たり 0.25 ~ 2 重量部の有機過酸化物と、

E) フルオロエラストマー 100 重量部当たり 0.3 ~ 1.3 重量部の多官能性助剤と、を含む硬化性フルオロエラストマー組成物。

[2] 前記可塑剤が、アクリレート、メタクリレートおよびエタクリレートからなる群から選択される少なくとも 1 種のアクリレートを含む、[1]に記載の硬化性組成物。

[3] 前記可塑剤が、トリメチロールプロパントリメタクリレート、多価アルコールエタクリレート、多価アルコールメタクリレートおよび多価アルコールアクリレートからなる群から選択される、[2]に記載の硬化性組成物。

[4] 前記カーボンブラックが、HAF、ISAF、SAF、SRF-HS-HMおよびFEFからなる群から選択される、[1]に記載の硬化性組成物。

[5] JIS K6300に準拠し、ML(1+4)、100 で測定された、最大で80までのムーニー粘度を有する、[1]に記載の硬化性組成物。

[6] [1]に記載の組成物から製造された硬化高温エアホース。

[7] JIS K6251に準拠して、230 で少なくとも120%の破断点伸びを有する、[6]に記載の高温エアホース。

[8] JIS K6253に準拠して、23 で73~85ポイントのデュロA硬度を有する、[6]に記載の高温エアホース。

[9] JIS K6257に準拠して測定された、230 で168時間オープン加熱老化後に8ポイント以下の硬度の変化を有する、[6]に記載の高温エアホース。

[10] 230 で70時間にわたる25%圧縮後に(大形試験片、JIS K6262に従って測定された)、70%以下の圧縮永久ひずみを有する、[6]に記載の高温エアホース。